



## 改訂版の刊行にあたって

---

近年、社会経済活動に伴う土地利用の変化、過疎化・高齢化等に起因する里地里山の荒廃による生物の生息・生育環境の悪化、人間により持ち込まれた外来種による地域固有種の侵食など生態系のかく乱や温室効果ガスの増加に伴う地球温暖化により、私たちの命と暮らしを支える多様な生物の生息環境が危機にさらされています。

このような生物多様性の危機の回避と、人類が自然と共生する世界の実現を目指して、2010年に名古屋で開催された生物多様性条約締約国会議（COP10）では、生物多様性の価値と、それを保全し持続可能な利用を促進していくこと、種及び遺伝子の多様性を守ることなどが世界の目標とされたところです。

多様な野生動植物が生息・生育する健全な自然生態系は、水源のかん養や県土の保全、様々な自然の産物や自然とのふれあいの場の提供など、様々な効用を私たちにもたらしています。地域の生物多様性を保全していくことは、私たちの生活や文化の基盤を守ることにもつながり、これを将来の世代に引き継いでいくことは私たちの責務でもあります。

本県では、全国をリードする環境実践「とっとり環境イニシアティブ」の取組の一環として、湖沼の水質改善や、地球温暖化を防ぐ森林整備、共生の森や里づくりなど自然がもたらす恩恵を持続的に享受できる健全な自然生態系の確保を目指し、NPOや地域、企業などと協働・連携して取り組んでいます。

このような中でこの度、本県の生物多様性の保全のための基礎資料である「レッドデータブックとっとり」を改訂いたしました。

本書によって、多くの方々の身近な自然への関心と理解がより一層深まり、自然と共存する地域をつくっていく上での参考となることを期待しています。

最後になりましたが、本書の発行にあたり御尽力いただきました鳥取県生物学会の皆様や多くの専門家、研究者の方々に、厚くお礼申し上げます。

平成24年3月

鳥取県知事 平井 伸治